

JSCR Newsletter



日本糖質学会会報
JSCR Newsletter published by
The Japanese Society of Carbohydrate Research

2022年度（第25回）日本糖質学会奨励賞 受賞者決定

日本糖質学会授賞選考委員 平林 淳
佐藤 ちひろ

本年度第25回日本糖質学会奨励賞が決定しましたのでお知らせします。

この度は糖質学会会員の皆様から優れた候補者の推薦をいただきありがとうございました。選考委員による厳正な審査を経て、理事会にて下記の3名を受賞者として決定いたしました。

受賞者には心からお祝いを申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待いたします。

なお、授賞式および受賞講演は今回第41回年会（大阪）にて行う予定です。詳細が決まりましたらお知らせします。

奨励賞

大川 祐樹（大阪国際がんセンター研究所）

がん及び炎症病変における糖鎖の機能解析

田中 秀則（岐阜大学）

糖の特異な化学構造と官能基反応性を利用した糖質関連物質の精密合成

羽根 正弥（名古屋大学）

疾患関連糖鎖オリゴ・ポリシアル酸の生合成機構および認識分子の解析

（50音順、敬称略）

CONTENTS

■奨励賞 受賞者決定	平林淳・佐藤ちひろ◎1	■糖鎖科学ポータル GlyCosmos	木下聖子◎8
■第41回日本糖質学会年会	三善英知◎2	■Sialoglyco 2022：第12回国際シアル糖鎖科学会議予告	◎9
■第41回日本糖質学会年会特別講演者のプロフィール	◎4	■理事会議事録	◎11
■「令和4年度日本糖質学会総会」開催のお知らせ	◎5	■理事・評議員・名誉会員・顧問・維持会員	◎12
■ヒューマングライコームプロジェクト	門松健治◎6		

第41回日本糖質学会年会

1. 開催日および場所

開催日 2022年9月29日(木)～10月1日(土)(3日間)
開催場所 大阪大学コンベンションセンター、大阪大学医学部保健学科講義棟
〒565-0871 吹田市山田丘1-7

2. 主催者および組織(代表者/連絡先)

主 催：日本糖質学会
代表者：第41回日本糖質学会年会組織委員長 三善 英知
大阪大学医学部大学院医学系研究科保健学専攻 医療技術科学分野
生体病態情報科学講座 分子生化学研究室・教授

組織委員

世話人 (五十音順)

岡 昌吾(京大・医)、梶原康宏(阪大・理)、鎌田佳宏(阪大・医)、
近藤純平(阪大・医)、深瀬浩一(阪大・理)、三善英知(阪大・医)

Executive Advisors (五十音順)

伊藤幸成(阪大・理)、木下タロウ(阪大・微研)
谷口直之(大阪国際がんセンター)、本家孝一(高知大・医)

Advisory Board (五十音順)

伊藤和央(大阪公大・理)、北爪しのぶ(福島医大)、顧 建国(東北薬科大)
島本啓子(サントリー生科財団)、高橋素子(札幌医大)、
田中克典(東京工大、理研)、野々村祝夫(阪大・医)、花島慎弥(阪大・理)、
原田彰宏(阪大・医)、藤本ゆかり(慶応大・理工)、
藤山和仁(阪大・生物学国際交流センター) 古川貴久(阪大・蛋白研)、
北條裕信(阪大・蛋白研)、保仙直毅(阪大・医)、前田裕輔(阪大・微研)、
松野健治(阪大・理)、森井英一(阪大・医)

事務局：近藤純平、水田容子、鎌田佳宏

大阪大学医学系研究科 保健学専攻
〒565-0871 吹田市山田丘1-7、TEL/FAX 06-6879-2594
E-mail: tousa@sahs.med.osaka-u.ac.jp

3. 共催または後援団体など

共 催 大阪大学医学系研究科、シクロデキストリン学会、セルロース学会、日本応用糖質科学
会、日本化学会、日本キチン・キトサン学会、日本植物生理学会、日本生化学会、日本生
物工学会、日本薬学会、日本生物物理学会
協 賛 高分子学会、繊維学会、日本食品科学工学会、日本膜学会、有機合成化学協会
後 援 日本神経科学学会、日本農芸化学会、日本癌学会、日本基礎老化学会、
日本ケミカルバイオロジー学会、日本免疫学会、日本脂質生化学会

4. 会議の目的：

大阪で年会在開催されるのは、2013年の第32回年会(大阪大学理学研究科 深瀬浩一先生が代表世話人)以来になります。第40回年会の特別講演では、名古屋大学の門松健治先生によってヒューマングライコームプロジェクトの紹介があり、今後の糖鎖研究には異分野融合研究が必須であると強調されました。そこで第41回の年会では「糖鎖研究の新しい潮流と未来」というテーマをかかげ、異分野融合研究を意識して、4つのワークショップ(WS)を企画しました。1つ目のWSは、「プロテオスタシスの理解と革新的医療の創出(AMED共催)」、2つ目のWSは「臨床に関わる糖鎖：バイオマーカーから応用まで」、3つ目のWSは若手研究者が中心で企画した「令和のグライコサイエンス」、そして4つ目のWSが異分野研究との融合を目指した「基礎医学研究のフロンティア」であります。特別講演では、後述のように夢のある話と超現実的なCOVID-19に関する話を提供します。

以上の企画に加えて、例年どおりの口頭発表、優秀演題/奨励賞受賞講演を行います。毎年、年会在で盛り上がるポスター発表に関しては、COVID-19を意識しながら、十分にスペースを確保して行い

たいと考えております。そして本年会の特別企画として、大きな医学研究のテーマである「がん、精神疾患」に関して、大阪大学関連の臨床医学教室の教授に教育講演をしていただき、教科書に書かれていない疾患の病態やアンメットニーズに関して勉強できるランチョンセミナーを企画しています。また、男女協働セミナーでは、名古屋大学医学系研究科教授の山本英子先生に、「私のキャリアパス—産婦人科から社会医学への転換（仮題）」というタイトルでご講演を賜る予定です。

2022年の秋、新型コロナウイルスによる社会状況がどのようになっているか予想できないところはあります。エクスカージョンの企画はございませんが、最終日は余裕を持ったスケジュールにしておき、有志で週末の関西を楽しんでいただければ幸いです。第41回日本糖質学会年会が起点となり、コロナ後の糖質研究が未来に飛躍できるよう、組織委員の総力をあげて準備を進めていきたいと考えております。会員の皆様には、是非大阪へお越しいただき、最新の研究成果の討論や発表を通じて、糖質科学研究全般の発展へ貢献いただくとともに、研究者ネットワークを構築いただければ幸いです。

5. プログラム概要

【年会の構成】

① プログラム・セッション

口頭セッション（40-50件程度）、ポスターセッション（200-250件程度）、ワークショップ、企業展示等、特別講演、男女協働セミナー、奨励賞受賞講演、優秀講演賞ファイナリスト講演、企業展示等、

② 講演要旨集

講演およびポスター発表のプログラムと要旨集を作成

【主要題目】

糖質の化学、糖質の生物学、糖質の構造生物学、糖質の化学生物学、糖鎖研究の医療・産業応用、糖鎖研究とバイオインフォマティクス、糖質の材料科学、糖質の反応/計算科学

【日程表】

年会日程	午 前	昼休み	午 後
9月29日 (木)	ワークショップ、 優秀講演賞2次審査、 口頭発表	教育講演/ランチョンセミナー	ポスター討論、ワークショップ2題、 口頭発表、評議員会
9月30日 (金)	ワークショップ、 優秀講演賞2次審査、 口頭発表	教育講演/ランチョンセミナー	総会、特別講演2題、男女協働セミナー
10月1日 (土)	口頭発表、 奨励賞受賞講演	教育講演/ランチョンセミナー	ポスター討論

【発表申込】

発表申し込み期間は、2022年5月11日から6月30日までです。皆様には糖質学会のホームページの年会専用ページおよび、評議員のML等でお知らせしています。

6. 参加登録料： < >内は2022年8月15日以降申込の金額です。

日本糖質学会正会員：7,000円 <9,000円>

日本糖質学会学生会員：2,000円 <4,000円>

一般：9,000円 <11,000円>

一般学生：3,500円 <4,000円>

ただし、共催・協賛・後援の学会の規程で、日本糖質学会員と同額の参加登録料で参加できる規程がある場合は、会員の登録料で取り扱います。

7. 託児室について

託児室については、現在調整中です。演題登録時に希望を伺います。

大阪大学の会場から距離がある可能性もございますので、ご了承ください。

8. 懇親会について

野外で行うことも含めて検討しましたが、現段階では全体の懇親会は予定しておりません。

第41回日本糖質学会年会 特別講演者のプロフィール

金田安史（かねだ やすふみ）先生 （国立大学法人大阪大学理事・副学長）

金田先生は、昭和55年大阪大学医学部のご卒業後老年内科に入局し、昭和59年に同医学研究科博士課程（指導教授 熊原雄一教授）を修了されました。その後、細胞工学センターで遺伝子治療に関する先駆的な研究を続けられ、平成4年には細胞生体工学センター助教授、そして平成10年には大阪大学医学部 遺伝子治療学（平成11年より大阪大学医学系研究科 遺伝子治療学）の教授に就任されました。平成25～27年、平成29～31年の2回にわたって大阪大学医学系研究科長を務められています。一貫して遺伝子治療に関する基礎研究/応用研究を続けられ、平成21～30年日本遺伝子細胞治療学会理事長を務められました。平成31年から大阪大学副学長、令和元年から現職を担当されています。西尾章治郎総長のもとでOUマスタープランを作られ、今後の大阪大学の方向性、産学連携のあり方を提唱されています。こうした金田先生のご経験に基づき、本特別講演では「基礎研究から産学連携へ、そして社会を創る」という夢のある話を拝聴したいと思います。

忽那 賢志（くつな さとし）先生 （大阪大学医学系研究科 感染制御学教授）

忽那先生は、平成16年に山口大学医学部をご卒業後、同大学の関連病院で初期研修を行われた後、山口大学医学部附属病院先進救急医療センター、奈良県立医科大学附属病院感染症センター、国立国際医療研究センターの国際感染症センターにおいて、感染症（特に新興感染症・輸入感染症）の臨床/研究に携わって来られました。特に令和2年1月以降は新型コロナウイルス感染症の臨床/研究に注力されています。そして、令和3年に現職である大阪大学医学系研究科感染制御学教授に就任されました。新型コロナウイルス感染症の学問的な研究に加え、一般人への啓蒙活動にも尽力されています。With コロナの時代を迎えて、研究者にとっても新型コロナウイルス感染症の正しい知識の更新は必要不可欠と言っても過言ではありません。本特別講演では、「COVID-19の現状とコロナ時代の感染対策」というトピックスを拝聴し、今後の学会活動・研究活動に役立てたいと思います。

「令和4年度日本糖質学会 総会」開催のお知らせ

会員各位

日本糖質学会
会長 石田 秀治

令和4年度通常総会を下記要領で開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご参集くださるようお願い申し上げます。

記

- 日時：2022年9月30日(金) 13:15～
場所：大阪大学コンベンションセンター（M0ホール）（〒565-0871 吹田市山田丘1-1）
議題：1) 報告事項
① 会員数の推移
② 会議の開催
③ JSCR Newsletter の発行
④ 令和3年度・令和4年度年会
⑤ 第25回日本糖質学会奨励賞・第3回優秀講演賞・第23回ポスター賞
2) 審議事項
① 令和3年度収支決算ならびに監査報告
② 令和4年度予算
③ 名誉会員・永年会員の推戴
3) その他の議案及び報告事項

ヒューマングライコームプロジェクト

東海国立大学機構 門松健治

2020年のニュースレターで、「ヒューマングライコームプロジェクト」(HGP)が「ロードマップ2020」に採択されたことを報告しました。この提案策定にあたってはJCGGおよび糖質学会の幹部の先生方をはじめ、実に多くの研究者と事務の方々にお世話になりました。この場を借りて、改めて、深く御礼申し上げます。

このロードマップは、文部科学省の科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤分科会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会によって決定されたもので

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1388523_00001.htm)、我が国の学術研究の基盤整備に資する重要課題が選ばれます。これまでのロードマップの採択課題のいくつかは大規模学術フロンティア促進事業をはじめとする大型予算の措置によって、約10年間のプロジェクトとして実行されています。一方、そのほとんどがハイパーカミオカンデ、すばる望遠鏡などに代表される物理、天文系のビッグサイエンスの課題でした。したがって、まだ、本プロジェクトの予算化が保証されたわけではありませんが、生命科学分野で初めての大型プロジェクトの始動に向けて、現在、努力しております。

我が国の生命科学の競争力減退は皆さんもご存知のとおりです。個別研究で光るものは多くありますが、それでも総体として世界をリードするどころか減退の一途を辿っています。最近我々が体験したCovid-19ワクチンの1例からもうかがえるように、このままでは科学のみならず産業においても極めて厳しい窮地に追い込まれ、我が国は国民の健康、命さえ、自前で守れない国家になっていきます。

一方で、生命科学全体を考えたとき、3大生命鎖の一つである糖鎖の情報がゲノムやタンパク質に比して圧倒的に少ないことが生命を解く力を限定的にして来たと言って過言ではありません。実際に、生命活動への糖鎖の高い寄与の重要性を認めつつも、大多数の研究者は糖鎖を避けて生命を理解しようとしてきました。糖鎖構造の複雑性、多様性が、この問題の最大のボトルネックでしたが、今やそれを解決するだけの技術的基盤も整いつつあります。しかも、日本はこれまで常に世界の糖鎖研究をリードしてきました。

以上2つの背景から、日本がけん引し、生命科学の革新をもたらすプロジェクトとして提案したのがHGPです。糖鎖の情報をゲノム、タンパク質並みに底上げすることが、本プロジェクトのミッションであり、個々の研究者のCuriosity-drivenの個別研究で達成されるものではなく、地味ですが達成すれば生命科学への恩恵は計り知れない、まさに生命科

学の基盤整備を行うものです。中国や欧米各国の糖鎖研究への注力、Human glycoproteomics initiativeなどの国際コンソーシアムの活動状況と、我が国が培ってきた糖鎖研究の優位性や上述の生命科学、産業活動への波及効果を考え合わせると、本プロジェクトの始動は待ったなしの状況にあると言ってよいと思います。

本プロジェクトでは、ヒト糖鎖情報のカタログ化を行います。ヒト糖鎖構造の精密地図を作成し、それをリファレンスに、はじめの5年間では3機関のコホートと共同で老化と認知症に集中し、血漿の糖鎖情報を取得します。後半の5年間では他の疾病に広げ、また、組織や臓器の糖鎖情報も取得します。これらの糖鎖情報は、ナレッジベースを構築して、ゲノム、タンパク質、画像、臨床データなどと統合します。ナレッジベースは国際的に共有化し、世界の生命科学者がそれを利用できるようにします。そして、この糖鎖情報取得への注力と並行して、分析・解析技術の向上を期します。中でも糖鎖分析の自動化はHGP遂行のために必須であると考えています。また、糖鎖の生合成の仕組みを理解し、改変技術を開拓します。

以上の研究は、東海国立大学機構、自然科学研究機構、創価大学をはじめとして、全国の機関が協力してミッションを達成する体制を構築します。その取り組みの一つとして上記3機関は共同利用・共同研究拠点「糖鎖生命科学ネットワーク型拠点」(J-GlycoNet)を設置し、2022年4月より本格始動しました。糖質学会のPIの先生方にはコラボレイティブフェローにご就任いただき感謝申し上げます。先生方からの糖鎖研究支援に留まらず、先生方へは共同研究公募課題の情報をいち早くお届けしています。その中にはHGPに資する共同研究テーマも設定しておりますので是非活発にご活用ください。さらに、HGPでは、多分野研究者の参入を企図したミックスラボの構想も実現したいと考えております。

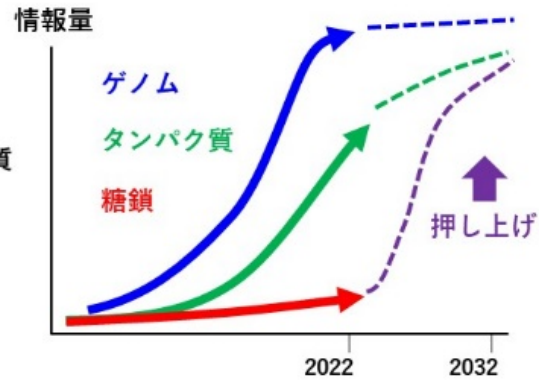
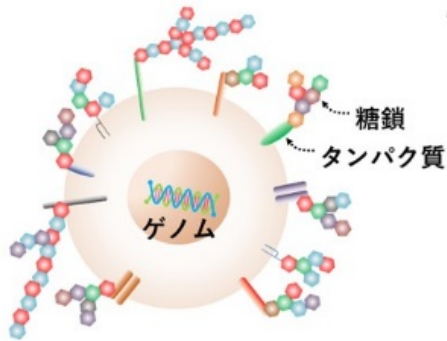
ご想像通り道は険しいですが、糖質学会の皆さまには、我が国と世界の糖鎖科学と生命科学のために、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

ヒューマンライコームプロジェクトの目指すもの

これまで達成できなかった予防・治療へ
(認知症・難治性がん・感染症など)

新しい生命像

3大生命鎖の情報量を同等にまで押し上げる



糖鎖科学ポータル GlyCosmos の新プロジェクトが開始

糖鎖科学ポータル GlyCosmos 運営委員会 委員長 木下聖子

今年度4月に、科学技術振興機構はライフサイエンスデータベース統合推進事業（統合化推進プログラム）において、6件の新規研究開発課題を決定しました。その内の一つが「異分野融合を志向した糖鎖科学ポータルのデータ拡充と品質向上」であり、本学会の公認ポータル GlyCosmos が対象です。本5年プロジェクトは、糖鎖科学情報と他のオミクス情報とを統合した GlyCosmos Portal を高度化し、微生物、植物、プロテオミクス などとの異分野融合を推進します。具体的には、リポジトリシステムを拡充し、新規にレクチンマイクロアレイや微生物関連糖鎖情報 および糖鎖関連パスウェイデータを受け入れられるリポジトリを開発します。また、リポジトリの登録データを半自動的にキュレーションして公開する仕組みも構築します。

昨年12月に公開した GlyCosmos

(<https://glycosmos.org>) バージョン2 [1]は、疾患情報なども加え、糖鎖遺伝子、糖タンパク質、パスウェイや多くの生物種の多様なオミクスデータを統合化しました。新型コロナウイルスを含めて糖鎖との相互作用データや、新しい複合糖質リポジトリ GlyComb のβ版も公開しました。また、PubChem や Reactome などの外部データベースとの相互リンクを通して、多くのアクセス数が見られています。さらに、便利なツール

として、遺伝子発現情報を糖鎖関連パスウェイ上に可視化して糖鎖構造の予測に役立つ

GlycoMaple [2] や糖鎖構造関連の検索ツールも提供しています。しかし、文献では報告されているが、データベースにまだ反映されていない多くのデータが存在します。これらのデータを拡充するための技術開発を進めながら、会員との連携を深めて公開できる情報をいただきたいと考えています。そのためのユーザーワークショップやジャンボリーも本プロジェクトで計画して

います。今後、本学会の誇りとなるよう、会員の助言をいただきながら、本ポータルの品質向上に尽力して参ります。

GlyCosmos の Help ページに本ポータルの利用方法を説明するビデオやFAQがあります。また、フィードバック用のフォームも用意してありますので、ユーザーからのコメントやご意見をお待ちしています。

参考文献

- [1] Yamada, I., Shiota, M., Shinmachi, D., Ono, T., Tsuchiya, S., Hosoda, M., Fujita, A., Aoki, N. P., Watanabe, Y., Fujita, N., Angata, K., Kaji, H., Narimatsu, H., Okuda, S., & Aoki-Kinoshita, K. F. (2020). The GlyCosmos Portal: a unified and comprehensive web resource for the glycosciences. *Nature Methods*, 17(7), 649-650.
- [2] Huang, Y.F., Aoki, K., Akase, S., Ishihara, M., Liu, Y.S., Yang, G., Kizuka, Y., Mizumoto, S., Tiemeyer, M., Gao, X.D., Aoki-Kinoshita, K.F., Fujita, M. (2021). Global mapping of glycosylation pathways in human-derived cells. *Dev Cell*. 56(8), 1195-1209. e7.

Sialoglyco 2022 : 第12回国際シアロ糖鎖科学会議 予告

会期 2022年9月5日(月)～8日(木)
会場 名古屋大学豊田講堂・シンポジオン (〒464-8601 名古屋市千種区不老町)
主催 国際シアロ糖鎖科学会議 2022 組織委員会
共催 日本糖質学会、東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所 (iGCORE)、名古屋大学生物機能開発利用研究センター、研究拠点形成事業「糖鎖生命原理を解明するための統合的世界研究拠点の構築」
後援 シアル酸研究会
ホームページ <https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~sialogly/>

実施概要

生物を構成する機能分子には、核酸、タンパク質、脂質、糖鎖が存在します。その中で、糖鎖は細胞表面における圧倒的存在感にもかかわらず、その重要性に関する認知度は著しく低いのが現状です。本会議は、糖鎖の科学的理解を推進し、さらに医薬農工の各領域への応用展開を図ることを目的として、糖鎖の中でも重要な位置を占める「シアル酸」に着目して、最新の知識や技術に関する情報交換、若手の教育と育成、さらには企業を含み日本社会全体への情報発信の場を提供します。糖鎖科学研究における世界の最先端研究者が一同に会して、成果発表、情報交換、討論を行います。なお、日本での開催は16年振りになります。COVID-19感染防止の取組みとして、感染防止対策、陽性者の来場を防ぐ対策等を適切に行うとともに、オンラインとの併用によるハイブリッド方式で行います。

主要テーマ

代謝：シアロ糖鎖の代謝と進化 (シアル酸転移酵素、シアリダーゼ、シアル酸代謝系)
 免疫：シアロ複合糖質と免疫、シグレックの認識機構
 神経：神経形成と機能、神経変性病、精神疾患
 疾病：様々な病態 (がん、感染症、炎症、神経系疾患など) に関わるシアロ複合糖質
 創薬と医療応用：産業などへのシアロ複合糖質の応用、シアロ糖鎖と創薬
 化学合成：シアロ糖鎖の化学的および酵素的合成
 新規構造解析：シアロ複合糖質の構造決定、質量分析

内容

1. プレナリー講演 (敬称略):
David Crich (USA), Ajit Varki (USA), James C. Paulson (USA)
2. 招待講演 (敬称略):
Takashi Angata (Taiwan), Kiyoko Aoki-Kinoshita (Japan), Christopher W. Cairo (Canada), Yijuan Chern (Taiwan), Sophie Groux-Degroote (France), Anne Harduin-Lepers (France), Toshiyuki Hayakawa (Japan), Go Hirai (Japan), Herbert Hildebrandt (Germany), Richard Jennemann (Germany), Hiren Joshi (Denmark), John S. Klassen (Canada), Kay-Hooi Khoo (Taiwan), Dirk J. Lefeber (The Netherlands), Amanda Lewis (USA), Xuechen Li (Hong Kong), Battula V. Lokesh (USA), Matthew Macauley (Canada), Jamey Marth (USA), Martina Muhlenhoff (Germany), Victor Nizet (USA), Yusuke Ohmi (Japan), Simonetta Sipioone (Canada), Tadanobu Takahashi (Japan), Hiroshi Tanaka (Japan), Alice Yu (Taiwan)
 # 海外招待講演者は3～4名を除き、全員現地参加の予定です。
 # 現地参加予定の座長の皆さん: Hiromune Ando (Japan), Takashi Angata (Taiwan), Kiyoko Aoki-Kinoshita (Japan), Philippe Delannoy (France), Koichi Furukawa (Japan), Yann Guerardel (France), Rita Gerardy-Schahn (Germany), Mark von Itzstein (Australia), Tadanobu Takahashi (Japan), 他
3. 口頭発表:
 タイプ1: 現地発表; タイプ2: オンラインでの発表; ビデオによる発表 (可能なら議論には参加)。
 # 口頭希望を明記して要旨を提出していただきます。申請が多い場合、採否は組織委員会に一任していただきます。
 # タイプ2と3では、ビデオを提出していただきます (タイプ2のビデオは万一の時のために提出願います)。全てのセッションは録画して、会期後の翌週にストリーミング配信します。その後、速やかに削除しますが、配信は辞退することができます。

4. ポスター発表:

ポスター希望と明記して要旨を提出してください。

全てのポスターはオンデマンドで会期中に配信します。現地参加者およびオンライン参加者ともに、5分間のプレゼンテーションビデオを提出していただきます。

現地参加者は、ポスターの準備もしていただき、会期中は常に掲示をお願いします。ポスターボードは高さ180 cm × 幅90 cmです。ポスターセッション（水～金）においては、飲み物などの提供があります。

参加・発表申し込み:

参加登録および申込方法の詳細は、HP (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~sialogly/>) を参照ください。下記申込期間内にWeb登録システムよりお申し込みください。

演題申込み期間: 2022年4月15日～6月30日

参加申込み期間: 2022年4月15日～8月30日

参加登録料: ()内は2022年8月1日以降申込金額です。

一般: 55,000円 (65,000円); 学生: 20,000円 (25,000円); 同伴者: 20,000円 (25,000円)

懇親会 日時: 2022年9月8日(木) **会場:** 名古屋市内ホテル(未定)

懇親会申し込み: 年会専用ページのWeb登録システムよりお申し込みください。会費: 10,000円

宿泊案内 2022年4月から学会専用ホームページに掲載されています。

問合せ先

Sialoglyco 2022 オーガナイザー:

北島 健 (名古屋大学糖鎖生命コア研究所)

石田 秀治 (岐阜大学糖鎖生命コア研究所)

Sialoglyco 2022 事務局

佐藤 ちひろ (名古屋大学糖鎖生命コア研究所)

名古屋大学生物機能開発利用研究センター

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

Tel: +81-52-789-4297 Fax: +81-52-789-5228

E-mail: sialogly@agr.nagoya-u.ac.jp

令和 4 年度役員(任期 2022. 7. 1~2023. 6. 30)

理事 安藤 弘宗
 石田 秀治
 梶原 康宏
 加藤 晃一
 蟹江 治
 北島 健
 木下 聖子
 佐藤 ちひろ
 鈴木 匡
 平林 淳
 藤本ゆかり
 本家 孝一
 監事 門松 健治
 深瀬 浩一

加藤 啓子 京都産業大学生命科学部
 加藤 晃一 自然科学研究機構生命創成探究センター
 門松 健治 名古屋大学大学院医学系研究科
 金川 基 愛媛大学大学院医学系研究科
 金森 審子 東海大学工学部
 蟹江 治 東海大学工学部
 鎌田 佳宏 大阪大学大学院医学系研究科
 亀井加恵子 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科
 亀山 昭彦 産業技術総合研究所創薬基盤研究部門
 川崎 ナナ 横浜市立大学大学院生命医科学研究科
 川島 博人 千葉大学大学院薬学研究科
 北岡 本光 新潟大学農学部
 北川 裕之 神戸薬科大学薬学部
 北島 健 名古屋大学生物機能開発利用研究センター
 北爪しのぶ 福島県立医科大学保健科学部
 木塚 康彦 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 木下 聖子 創価大学理工学部
 木村 吉伸 岡山大学大学院環境生命科学研究科
 顧 建国 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 神田 大輔 九州大学生体防御医学研究所
 小島 直也 東海大学工学部
 佐藤あやの 岡山大学工学部
 佐藤 武史 長岡技術科学大学生物系
 佐藤ちひろ 名古屋大学生物機能開発利用研究センター
 佐藤 智典 慶應義塾大学理工学部
 篠原 康郎 金城学院大学薬学部
 島本 啓子 公益財団法人サントリー生命科学財団
 清水 史郎 慶應義塾大学理工学部応用化学科
 清水 弘樹 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 須貝 威 慶應義塾大学薬学部
 鈴木 匡 理化学研究所開拓研究本部
 高橋 素子 札幌医科大学医学部
 竹内 英之 静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院
 竹川 薫 九州大学大学院農学研究院
 武田 陽一 立命館大学生命科学部
 竹松 弘 藤田医科大学医療科学部
 舘野 浩章 産業技術総合研究所糖鎖医工学研究センター
 田中 克典 理化学研究所開拓研究本部
 田中 浩士 東京工業大学物質理工学院
 田村 純一 鳥取大学農学部
 千葉 靖典 産業技術総合研究所生命工学領域研究戦略部
 榎谷内 晶 創価大学理工学研究科
 戸嶋 一敦 慶應義塾大学理工学部
 戸谷希一郎 成蹊大学理工学部
 豊田 英尚 立命館大学薬学部
 豊田 雅士 東京都健康長寿医療センター研究所
 中川 優 名古屋大学糖鎖生命コア研究所

評議員 (任期 2022. 7. 1~2023. 6. 30)

相川 京子 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系
 赤井 昭二 女子栄養大学応用有機化学研究室
 芦田 久 近畿大学生物理工学部
 天野 純子 (公財)野口研究所糖鎖生物学研究室
 荒田洋一郎 帝京大学薬学部
 安藤 弘宗 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 池田 義孝 佐賀大学医学部
 池原 譲 千葉大学大学院医学研究院・腫瘍病理学
 石田 秀治 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所
 石水 毅 立命館大学生命科学部
 和泉 雅之 高知大学教育研究部
 板野 直樹 京都産業大学生命科学部
 一柳 剛 鳥取大学農学部
 伊藤 孝司 徳島大学大学院医歯薬学研究部
 糸乗 前 滋賀大学教育学部
 井原 義人 和歌山県立医科大学医学部
 上村 和秀 中部大学生命健康科学部
 大谷 克城 酪農学園大学農食環境学群
 大坪 和明 熊本大学大学院生命科学研究部
 大橋 貴生 摂南大学理工学部生命科学科
 岡 昌吾 京都大学大学院医学研究科
 岡島 徹也 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・医学系研究科
 越智 里香 高知大学教育研究部
 柿崎 育子 弘前大学大学院医学研究科
 角田 佳充 九州大学大学院農学研究院
 笠原 浩二 東京都医学総合研究所
 梶原 康宏 大阪大学大学院理学研究科
 梶本 哲也 立命館大学総合科学技術研究機構
 片山 高嶺 京都大学大学院生命科学研究科
 加藤 敦 富山大学附属病院薬剤部

木塚 康彦 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 木下 聖子 創価大学理工学部
 木村 吉伸 岡山大学大学院環境生命科学研究科
 顧 建国 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 神田 大輔 九州大学生体防御医学研究所
 小島 直也 東海大学工学部
 佐藤あやの 岡山大学工学部
 佐藤 武史 長岡技術科学大学生物系
 佐藤ちひろ 名古屋大学生物機能開発利用研究センター
 佐藤 智典 慶應義塾大学理工学部
 篠原 康郎 金城学院大学薬学部
 島本 啓子 公益財団法人サントリー生命科学財団
 清水 史郎 慶應義塾大学理工学部応用化学科
 清水 弘樹 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 須貝 威 慶應義塾大学薬学部
 鈴木 匡 理化学研究所開拓研究本部
 高橋 素子 札幌医科大学医学部
 竹内 英之 静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院
 竹川 薫 九州大学大学院農学研究院
 武田 陽一 立命館大学生命科学部
 竹松 弘 藤田医科大学医療科学部
 舘野 浩章 産業技術総合研究所糖鎖医工学研究センター
 田中 克典 理化学研究所開拓研究本部
 田中 浩士 東京工業大学物質理工学院
 田村 純一 鳥取大学農学部
 千葉 靖典 産業技術総合研究所生命工学領域研究戦略部
 榎谷内 晶 創価大学理工学研究科
 戸嶋 一敦 慶應義塾大学理工学部
 戸谷希一郎 成蹊大学理工学部
 豊田 英尚 立命館大学薬学部
 豊田 雅士 東京都健康長寿医療センター研究所
 中川 優 名古屋大学糖鎖生命コア研究所

中北 慎一 香川大学総合生命科学研究センター
 中野 博文 愛知教育大学自然科学系化学
 中の三弥子 広島大学大学院統合生命科学研究科
 中山 淳 信州大学医学部
 長東 俊治 新潟大学理学部
 西河 淳 東京農工大学大学院農学研究院
 西島 謙一 名古屋大学生命農学研究科
 西田 芳弘 千葉大学大学院園芸研究科・応用生命化学領域
 西村紳一郎 北海道大学大学院先端生命科学学院
 野上 敏材 鳥取大学大学院工学研究科
 羽田 紀康 東京理科大学薬学部
 花島 慎弥 大阪大学大学院理学研究科
 原田陽一郎 大阪国際がんセンター研究所
 東 伸昭 星薬科大学薬学部
 比能 洋 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 平井 剛 九州大学大学院薬学研究院
 平林 淳 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 深瀬 浩一 大阪大学大学院理学研究科
 伏信 進矢 東京大学大学院農学生命科学研究科
 藤本ゆかり 慶應義塾大学理工学部
 藤山 和仁 大阪大学生物工学国際交流センター
 古川 圭子 中部大学生命健康科学部
 古川 潤一 北海道大学大学院医学研究院
 北條 裕信 大阪大学蛋白質研究所
 保坂 善真 鳥取大学農学部
 細野 雅祐 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 本家 孝一 高知大学医学部
 松尾 一郎 群馬大学大学院理工学府
 松岡 浩司 埼玉大学大学院理工学研究科
 松野 健治 大阪大学大学院理学研究科
 眞鍋 史乃 星薬科大学薬学部
 萬谷 博 東京都健康長寿医療センター研究所
 三浦 佳子 九州大学大学院工学研究院
 水野 真盛 (公財)野口研究所糖鎖有機化学研究室
 三苫 純也 九州保健福祉大学生命医科学部
 宮西 伸光 東洋大学食環境科学部
 三善 英知 大阪大学大学院医学系研究科
 門出 健次 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 矢部 富雄 岐阜大学応用生物科学部
 山口 拓実 北陸先端科学技術大学院大学
 山口 真範 和歌山大学教育学部
 山口 芳樹 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 山地 俊之 国立感染症研究所細胞化学部
 山田 修平 名城大学薬学部・病態生化学研究室
 湯浅 英哉 東京工業大学大学院生命理工学研究科
 横山 三紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
 渡辺 秀人 愛知医科大学分子医科学研究所

名誉会員

池中 徳治	石戸 良治	伊東 信
伊藤 幸成	稲津 敏行	遠藤 玉夫
小川 智也	小川 温子	笠井 献一
川寄 敏祐	木曾 真	木下 タロウ
木全 弘治	楠本 正一	木幡 陽
鈴木 明身	鈴木 邦彦	鈴木 茂生
鈴木 康夫	谷口 直之	成松 久
西原 祥子	橋本 弘信	長谷 純宏
古川 鋼一	村松 喬	山形 達也
山本 憲二		

顧問

一島 英治

維持会員

協和キリン (株)
 (一財) 杉山産業化学研究所
 (株) スディックスバイオテック
 住友ベークライト (株)
 生化学工業 (株)
 DSP 五協フード&ケミカル (株)
 東京化成工業 (株)
 長良サイエンス (株)
 (公財) 野口研究所
 (株) 伏見製薬所
 松谷化学工業 (株)
 (株) ヤクルト

JSCR Newsletter (日本糖質学会会報) Vol. 26, No. 1

2022年6月25日 発行

編集兼発行 日本糖質学会

会長 石田 秀治

〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-38-12

油商会館3F

TEL: 03-5642-3700

FAX: 03-5642-3714

JSCR Newsletter 編集委員会

本家 孝一

蟹江 治